

令和6年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度は「学習活動（教科指導の充実）」「学校生活（生活指導の充実と健康な心身の育成）」「進路支援（進路目標の設定とその実現）」「特別活動（ボランティアと図書）」「その他（実践的英語力の向上と国際理解教育の充実）」の5項目を重点項目とし実践した。いずれの項目についても生徒の実態に合わせて目標を設定した。

(1) 「学習活動（教科指導の充実）」

今年度の互見授業は例年通り1学期と2学期に実施した。1学期は、互見授業の参観回数は昨年度よりも若干減少したが、目標を達成することができた。今年度から全学年の学習評価が観点別評価になり、授業の進め方も教科ごとに工夫がなされてきた。そのこともあり、教科外の授業を参観し、参考にする教員が増えている傾向が見受けられた。

教科部会に関しては、定例会を持ち指導を共有している教科もある。また、必要に応じて単発的に部会を開催し情報交換している教科も増えてきており、指導に対してどの教科も意欲的に取り組んでいる。

(2) 「学校生活（生徒指導の充実と健康な心身の育成）」

今年度は新たに部活動の生徒にもあいさつ運動に参加してもらった。そのため、昨年以上に元気なあいさつが行われたように感じる。来年度も定期的なあいさつ・服装指導を行い、日常生活の中でさわやかなあいさつができるよう、今後も継続的に指導していきたい。

教育相談では、心の悩みを抱える生徒が複数いたが、スクールカウンセラーや外部機関と連携し共通理解を図り、対応することができた。また、清掃については、行事の際などに重点項目の美化に取り組むことで、限られた生徒数、教員数であっても清潔な環境を維持するよう工夫した。

(3) 「進路意識（進路目標の設定とその実現）」

今年度もPTA主催の「職業人が語る会」を実施することができた。また、大学生による進路ガイダンスや外部講師による進路講話を実施し、学習の意義や進路意識を高めることができた。受験への取り組みに対する満足度は67%と、目標（60%以上）を上回って達成することができた。しかし、「やや不満」「不満」と答えた生徒が14%と目標（10%）を達成できなかった。これについての原因を分析し今後の改善につなげたい。

(4) 「特別活動（ボランティアと図書）」

生徒がボランティア活動に参加した割合が97.9%(目標90%以上)と大きく目標を上回ることができた。図書の活動としては、生徒の委員会活動に対する取り組みは、昨年以上に意欲的で活動的に行われたが、読書量に関しては目標を達成できなかった。

(5) 「その他（実践的英語力の向上と国際理解教育の充実）」

実用英語技能検定には、多くの生徒が意欲的に取り組んだ。GTECに関しては、1年生が目標に届かなかったが、他学年は大きく点数を伸ばした。現3年生から新カリキュラムとなり、英語の4技能を伸ばす活動を多く取り入れたことで、着実に英語力の向上が見られた。

国際理解教育においては、今年度も英国語学研修を3月に行った。参加生徒は事前研修にも熱心に取り組み、現地では積極的にコミュニケーションをとるなどして大きな成果を上げた。帰国後には、英語や異文化への興味関心が大いに高まった。

7 次年度に向けての課題と方策

- ・大学受験を見据えた教科指導と観点別評価を意識した授業とのバランスをとりながら、進度を維持していくのは非常に難しい。教科内での情報交換の重要性がますます高まっていくと思われる。
- ・担任及び学年担当のみならず、教科等で関わるすべての教員が、生徒に対し早い時期から進路に対する意思を持たせるように、細やかな声かけ、面談等を行う。
- ・生徒が積極的に委員会活動を行うなかで、いかにして読書量を増やす活動に結びつけていけるかを考える。